

失業、住まいなくす

まさか私が...

緊急事態宣言が出されてから1週間。東京都・池袋駅周辺でNPO法人「TENOH ASI」が毎週行っている生活困窮者への夜回りがありました。

(小酒井自由)



ボランティア(左)からおにぎりをもらう人13日、東京都豊島区

13日午後8時の同駅は多くの人が行き交います。駅周辺の飲食店は、営業時間短縮の要請に応じ、次々と店を閉めていきます。また、繁華街警備隊の人たちが、至る所で新型コロナウイルスの感染拡大防止の協力を呼び掛けています。

食料求める行列

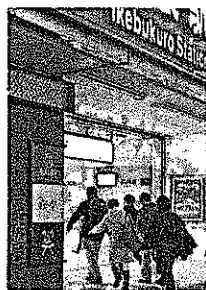
午後9時半、同駅近くの公園に夜回りのボランティアが集まり、食料を求める人たちが列をつくりました。女性や若者の姿も。

路上生活をしているという30代の男性に話を聞くと

「街コン(出会いを求めるイベント)を企画する仕事でコロナの影響で無くなり、3カ月前から失業して住まいも無くなりました。まさか自分がこうなると思わなかった。たまの日雇いで炊き出しで生活していま

東京・池袋駅周辺 NPO、支援の夜回り

夜回りをするボランティアの人13日、東京都豊島区



す。生活保護は事情があって受けたくない。住まいを支援してもらえないか支援団体と相談しています。コロナを機に生活が百八十度変わってしまった」

街コン企画の仕事はマッチングアプリに取って代わられ、もうないと言います。「コロナ禍の中では定職を探すのも厳しい。国や都から昨年の一律10万円給付のような支援金を再度支給してほしいと話しました。公園に並んだのは先週より8人増えて46人。40人を超えたことに「いままでにない数」と「TENOH ASI」の清野賢司事務局長は驚きます。

食料を配布した後は、池袋駅周辺を数コースに分けて夜回りをします。駅構内で、路上生活を脱したいと言つ男性(68)と清野さんが相談していました。

生活保護勧める

男性は20年前から池袋周辺で路上生活をしていました。昨年3月からは約9カ月間、自立支援センターの住まいと少額の生活費が受けられる事業を受けて都内のアパートで暮らしていたと言います。しかし、職員との折り合いが悪く耐えられなくなりアパートを抜け出しました。

話がまとまらなかったものの、次週の夜回りで再度話し合う約束をしました。別れ際、「また来ますからね」と笑顔の清野さん。すでに人通りがほとんどなくなっていました。

政府はさらなる支援を

「TENOH ASI」清野事務局長の話 います。政府や自治体は、さらなる支援が必要です。

政府や自治体は、さらなる支援が必要で、必要な人に支援が届くように周知することが大事になります。このままでは、路上生活になる人が増えてしまうでしょう。